



小島 智恵 議員
(政風クラブ)



朝ドラ100作目「なつぞら」のロケ地や観光の来客誘致に関する一般質問を昨年行った。

4月の放送開始後、十勝の知名度は上がり、ロケ地は防疫等の理由で公表されていないが、ゴールデンウィーク中は観光客や売り上げが増加して波及効果ありとの報道がされた。さらに隣接する大樹町では、5月に民間単独開発では国内初というロケット打上げに成功し、道内外から観客6千人余りが訪れ、宿泊施設が満室になるなど活気づいていたと報道された。全国注目が十勝に集まるいま、わが町もこの機運を生かした観光振興の取組が期待され、以下について伺う。

(1) なつぞら、ロケット発射による本町への反響、経済波及効果は。また、今後のロケット発射場における経済効果についての見解は。

(2) ふるさと納税の新制度が6月から始まり、観光客誘致の積極的な取組として、返礼品のモノ(品)からコト(体験)への取組は。

問

「なつぞら」やロケット発射場の観光への波及効果は大きい、積極的な観光振興の取組を豊富に観光資源の情報発信、十勝南部地域との連携を図り、幕別地域への誘客にもつなげたい

(3) 5月に着任した地域おこし協力隊員による地域振興、活動内容は。

町長

(1) なつぞらのロケ地は公表されていないため直接的な効果は不明だが、帯広市内のとかち物産センターでは「なつぞら展」の開催などにより、ゴールデンウィーク期間中に前年の3・7倍の人が訪れたほか、本町にもなつぞらに関する問合せが数件寄せられている。また、同期間中のナウマン象記念館の入場者数は、前年同時期の70%増、道の駅・忠類の売上金額も前年同時期の23%増となるなど、ロケット発射に伴い多くの効果が見られた。

現時点で具体的な経済効果を試算することは困難だが、今回の打上げ成功により小型ロケットと観測ロケットの発射場の整備が検討される中、特に忠類地域では、観光客やロケット関連事業の出張者の増加が見込まれると想定している。地域の豊富な観光資源の情報を発信を行うとともに、大樹町をは

じめ十勝南部地域とも連携を図りながら、幕別地域への誘客にもつなげたい。

(2) 新制度では、返礼品は「寄附額の3割以下の地場産品」に限定され、全国一律となり、これまで以上に商品の魅力やアイデアが求められる、新たに体験型プログラムを返礼品に定める団体も増えている。

パークゴルフ発祥の町である本町は、インストラクター付きパークゴルフ体験やモール温泉を体験できる入浴回数券、宿泊券を返礼品として扱っている。今後も新ルールの中、町内事業者の協力をいただき、本町の特徴を生かした搾乳などの酪農体験や乗馬など体験型メニューも含めた魅力ある返礼品づくりに取り組みしたい。

(3) 忠類地域における温泉施設や道の駅、ナウマン公園、白銀台スキー場のほか、豊富な食材の活用や酪農体験等を含めた観光資源を軸に忠類地域の活性化を図るため、待望の隊員を1名配置することができた。活動内容は(1)SNSを活用

用した地域情報の発信、(2)観光施設や特産品等の観光資源を生かした新たな事業の展開に向けた活動、(3)地域イベントの運営協力。これらを基本とすることで地域住民や団体等と積極的な交流を進める。

再質問「なつぞら」に登場した「バターチャーン」(製造機)は、ふるさと館にしかなく、来館者も増加している。今後の情報発信や展示の工夫は。また、ふるさと納税の新たな制度で寄附額が激減していると聞く、影響額は。

答札幌の旅行会社がふるさと館を訪れるツアーを組んでいる。旅行会社への営業活動など引き続き情報発信に努め、展示についても簡単な形で表記したい。ふるさと寄附は、昨年11月から今年3月の寄附額が約1億6400万円、前年同期間の2億8900万円に対して約1億2500万円減の状況。



バターチャーン
幕別町ふるさと館に展示